



ICSW グローバル・コーポレーション (国際社協ニュースレター)

2012年1月

【概要】

- スtockホルム合同世界会議
- 社会保護フロア・イニシアチブ (SPF-I) のための請願書
- 連邦諸国におけるミレニアム開発目標 (MDGs) に向けた進捗の振り返り
- 議会マガジン
- 『Global : the international briefing』の出版
- 武力紛争における子どもたち
- 貧者を罰する
- 誰も気に留めない HIV/AIDS
- 中東・北アフリカにおける子どもたちと社会保護
- OECD 出版物
- 『South Bulletin : 新しい世界金融危機に備えて』
- スリランカの和平プロセスの分析に関するノルウェーの評価レポート

ストックホルム合同世界会議

国際ソーシャルワーク学校連盟 (IASSW)、ICSW、そして国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) による 2012 年合同世界会議の準備は着々と進んでいる。締め切り時点でのアブストラクトの数は 2,000 本であった。登録は続々と行われ、香港での 2010 年合同会議に続く成功を確信している。登録は以下からどうぞ。

<http://www.swsd-stockholm-2012.org/>

社会保護フロア・イニシアチブ (SPF-I) のための請願書

世界の凄まじい貧困を撲滅するために、国際労働機関 (ILO) および世界保健機関 (WHO) は、自国の国民のために全国的な社会保護フロアを打ち立てようとしている国々の支援のために働く世界的な連合を作ろうとする国連の合同事業として、社会保護フロア・イニシアチブ (SPF-I) の連絡調整を行ってきた。

社会保護フロアは、基本的なサービスや、現金および現物による社会的移転への普遍的なアクセスの保証を通して、所得保障、食料確保、適切な栄養、基本的サービスへのアクセス等を保証するための、総合的な国の社会保護制度の最初の段階であり、万人のための人権を認識させる一助となるものである。

この重要なキャンペーンは、国レベルおよび世界レベルでのロビー活動に使えるツールである。

この請願書を世界中に広め、そしてこれに署名するよう、友人に呼びかけて欲しい。

<http://www.gopetition.com/petitions/signature-campaign-social-protection-floor.html>

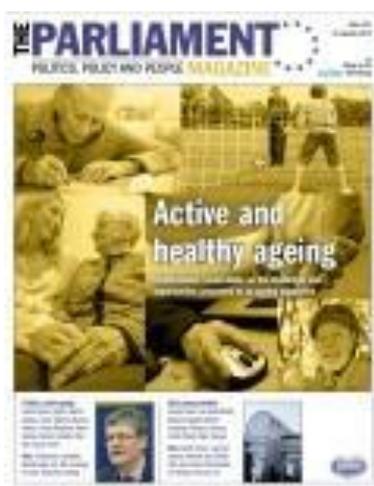
連邦諸国におけるミレニアム開発目標（MDGs）に向けた進捗の振り返り

英連邦基金は、研究者、学術関係者、市民社会組織（CSOs）、政策シンクタンクに対し、連邦諸国内における MDGs に向けた進捗の見直しへの参加に興味があるかどうかを表明するよう呼びかけている。

見直しのプロセスでは、報告書『*Breaking with Business as Usual: Perspectives from Civil Society in the Commonwealth on the Millennium Development Goals (MDGs)*』における連邦 14 か国のケース・スタディを鑑み、2005 年の出版以来の進歩を評価する。『*Breaking with Business as Usual*』は、政府および市民社会の手による各国の報告書に基づいた、連邦における目標に向けての進歩の概要を提供しており、CSOs の MDG アジェンダへの貢献を検証し、さらにこれを強化するやり方について助言している。また、MDGs の成就に影響を与える可能性のある、紛争、損失、人的資源能力、生態学的ショックなどの変数についても分析している。特に委託された報告書では、カメルーン、ガーナ、ジャマイカ、マラウイ、ニュージーランド、パキスタン、サモア、シエラレオネ、スリランカ、タンザニア、トリニダード・トバゴ、ウガンダおよびザンビアの報告書について言及しており、これらの国々からの応募を受け付けている。締切は 2012 年 2 月 10 日。詳細は以下を参照のこと。

<http://www.commonwealthfoundation.com/Howwedeliver/Civilsocietycapacitydevelopment/Knowledgegeneration/BreakingpointthepostMDGAgenda>

議会マガジン



ヨーロッパの出来事に興味のある方々には、『Parliament Magazine（議会マガジン）』がお勧めだろう。本誌のウェブサイトでは、以下のように謳っている。

「『議会マガジン』は、2 週間ごとにヨーロッパ政治の迷路へと皆様をご案内いたします。2012 年の最初の号では、雇用および社会問題を扱います。インクルージョン・コミッショナーの László Andor 氏が、2012 年における活力ある高齢化と世代間の連帯のヨーロッパ年について書きます。」

<http://www.theparliament.com/magazines>

『Global : the international briefing』の出版

『Global: the international briefing』は、英連邦事務局の委託を受けて、2009年にトリニダード・トバゴで開かれた英連邦首脳会議において設立された、自主編集の雑誌である。

本誌は、「世界の指導者たちの専門知識と世界有数のライターや思想家たちの洞察力、そしてごく普通の市民たちの実生活における経験」とのバランスを取るようになっている、と述べている。2011年の最新号には、UN ウィメンのバチエレ事務総長および全セクションに対する、資源産業についてのインタビューなど、国際 NGO についての概要を含む興味深い記事が掲載されている。

<http://www.global-briefing.org/>

武力紛争における子どもたち



武力紛争に苦しめられた子どもたちが正義を求めることができるようなメカニズムに、コンセプティックな明瞭さをもたらすことを目的とする、「武力紛争の最中およびその後における子どもたちと正義」に関するワーキング・ペーパーの発足に伴い、国連の民間連絡サービス (NGLS) は、子どもフォーラム・ネットワーク

(Children's Forum Network) の元会長であり、シエラレオネにおける武力紛争の犠牲者でもある Messeh Kamara 氏にインタビューを行った。

<http://www.un-ngls.org/spip.php?article3589>

貧者を罰する



国連極貧と人権に関する特別報告官 (the Special Rapporteur on Extreme Poverty and Human Rights) は、国際運動 ATD 第 4 世界 (ATD Fourth World Movement)、国連ペルー代表部、国際人権政策評議会 (ICHRP) と協力して、「貧者を罰する：貧困の中で暮らす人々の自主権を不利にし、分離し、制御し、あるいは損なう社会政策におけるやり方を探る」と題したパネルディスカッションを主催した。

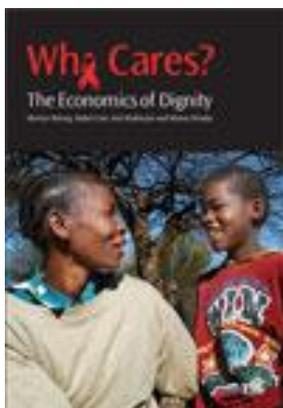
ディスカッションに続き、特別報告官の極貧および人権に関する報告 (A/66/265) が発表された。

<http://www.ohchr.org/Documents/Issues/EPoverty/A.66.265.pdf>

詳しくは下記を参照のこと。

<http://www.un-ngls.org/spip.php?article3590>

誰も気に留めない HIV/AIDS



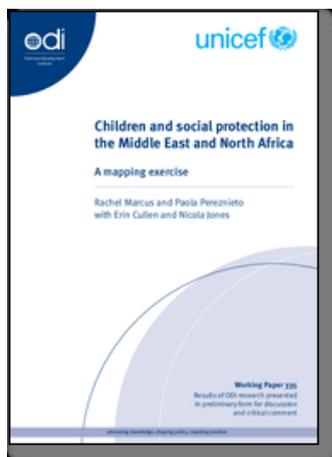
HIV/AIDS 対策の中心は、ケアや治療を必要としている 1,200 万人にのぼる人々である。病気の人は、物理的・社会的・心理学的サポートをしてくれる介護者の支援を必要とする。しかしながら、基本的な対策にとって欠くことのできない立役者であるこうした介護者は、彼らに依存しているはずの制度側からは全く見えない存在となっていることがしばしばである。

著者らは、世帯レベルで介護者に焦点を当てるのが、最も効果的かつ必要とされている支援を指示し、人権を尊重し、そして保健分野におけるミレニアム開発目標（MDGs）を達成する一助となる、と論じている。

- 著者：Anit Mukherjee, Marilyn Waring, Meena Shivdas, Robert Carr
- ISBN：No: 978-1-84929-019-7
- 発行日：2011 年 10 月
- 価格：15.00 ポンド

<http://publications.thecommonwealth.org/who-cares--809-p.aspx>

中東・北アフリカにおける子どもたちと社会保護



- ODI ワーキング・ペーパー 335、2011 年 10 月
- 著者：Rachel Marcus、Paola Perezniेतo、Erin Cullen、Nicola Jones

この ODI（海外開発研究所）ワーキング・ペーパーは、子どもにやさしい社会保護に特別の注意を払って、中東・北アフリカにおける国レベルでの社会保護イニシアチブおよび関係者の主だったものをマッピングしたものである。結論では、この地域におけるすべての国々が、広範囲にわたる社会保護フロア・イニシアチブのホームとなることを助言している。そして各国においては、その提供についての異なるモダリティと同様、様々な調停の複雑なジグソウが存在する。

http://www.odi.org.uk/resources/details.asp?utm_source=newsletter&utm_medium=email&utm_campaign=20111027&id=6038&title=social-protection-children-middle-east-north-africa-

OECD 出版物

- 『国内資源の掘り起こしという観点から見た MDGs コスト見積もりの再考』

● PDF—1.63Mb

● Vararat Atisophon, Jesus Bueren, Gregory De Paepe, Christopher Garroway, Jean-Philippe Stijns

本ペーパーは、世界レベルでミレニアム開発目標（MDG s）を達成するために必要とされるリソース・エンベロープの提供を目的としている。本文献の投稿者によって広く認められているように、MDG s を達成するためのコストのモデルを構築することは、多くのデータと方法論的な課題を突き付けるものである。

http://www.oecd-ilibrary.org/development/revisiting-mdg-cost-estimates-from-a-domestic-resource-mobilisation-perspective_5k9h6vwx0nmr-en

■ 『介護求む？長期介護の提供と支払い』

男性の平均寿命は 70 歳代後半、女性のそれは 80 歳代に突入する時代となり、人々は人生をできる限り満喫するために、これまで以上に介護を望むようになる。人口動態学的傾向および労働市場の動向は、我々の世話をする家族や友人の供給にどのような影響を及ぼすのか？体の弱った高齢者のための支援の担い手として家族介護者だけに頼り切ってしまうでもいいのか？家族介護者への支援はあるのか？あるとすればどのような形なのか？介護者を惹きつけ、留めることができるのか？それはただ単に報酬を上げれば済むことなのか？介護における自己負担と公的支援のバランスはどうあるべきなのか？長期介護サービスの効率を上げることで、コストを下げることはできるのか？

http://www.oecd.org/document/23/0,3746,en_2649_37407_47659479_1_1_1_37407_00.html

『South Bulletin : 新しい世界金融危機に備えて』

● South Centre

● 第 56 号

● 2011 年 10 月 3 日

● www.southcentre.org

『South Bulletin』誌は、近年の世界経済状態の劣化と、それが開発途上国に与える影響に焦点を当てている。以下、本誌のトピックである。

◇ 「新たな世界的金融危機への備え」(Martin Khor)

開発途上国は、新しい世界的な金融・経済危機の災厄に備えている。

◇ 「回復期の終わり」と新たな世界的景気後退の始まり」(Yilmaz Akyüz)

◇ 「開発途上国が直面する幾多の不確実性と不安定性」(Dr. Yaga Venugopal)

◇ 「『南』が次の危機に直面する際に可能性のある 3 つのシナリオ」(Dr. Charles Soludo)

元ナイジェリア中央銀行総裁である著者は、なぜ開発途上国が次の危機に対して備え

なければならぬか、について述べ、世界金融の乱気流に対して世界がどのようにアプローチし得るかについての3つのシナリオについて書いている。

◇ 「世界金融改革のアジェンダにおける最近の進展」(Andrew Cornford)

世界金融政策問題のスペシャリストである著者が、世界金融規制制度改革の状況に関する序論と結論を紹介している。

スリランカの和平プロセスの分析に関するノルウェーの評価レポート

(ICSW スリランカ・メンバー、全国平和協議会 (National Peace Council of Sri Lanka) より)

30年に及んだスリランカの内戦とテロは、タミール・イーラム解放の虎 (Liberation Tigers of Tamil Eelam : LTTE) を軍が制圧することで、2009年5月に終結を迎えた。失われた人命、破壊された資産、過ぎ去った開発の機会、傷ついた思い、そしてスリランカ人の移住など、支払った代償は計り知れない。内戦の最終段階でもたらされた苦さと敵意は、政府とタミール指導者との間、そして民族コミュニティ間で真の和解が成立されない限り、民族間の関係に永久に消えない傷跡を残すだろう。

この件において、ノルウェー政府が自らの平和イニシアチブを独立した綿密な精査、それも厳しい精査にかけようとする意欲は、透明性および開放性のよい一例である。今や戦いは終わり、全国平和協議会はノルウェーおよび国際コミュニティに対し、政治的解決および戦後の発展を達成すべく、スリランカを支援するよう強く促している。和平プロセスに直接関与している米国、EU、インドおよび日本を含む国際コミュニティは、スリランカにおける正義を伴う平和を確保するために、その努力を続けていく必要がある。

レポート『平和への一手：スリランカにおけるノルウェーの平和努力の評価、1997-2009 報告書、2011年5月』全文は、以下を参照のこと。

<http://www.soas.ac.uk/development/news/file72788.pdf>

本ニュースレターの内容の引用・転載は、出展を明らかにする限り自由です。本ニュースレターに掲載された見解は、必ずしも ICSW の方針であるとは限りません。

編集：ICSW 常務理事 デニス・コレル

ICSW 連絡先

Plot 4, Berkeley Lane, Off Lugard Avenue

Entebbe

Uganda

Website: www.icsw.org

Email: icsw@icsw.org

Tel: +256 414 32 11 50